

# 茨城県経済四期報

## 〈茨城県の経済動向 平成18年7～9月期〉

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまで県等で公表された当該分野の各主要経済指標の数値変更をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

### 概 況

本県経済は、全体として、緩やかな回復を続けている。

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は緩やかに増加しており、消費は一部に弱い動きが見られるものの、底固く推移している。民間設備投資は、増加しており、公共投資もこのところ増加している。

住宅投資は、TX沿線周辺を中心に増加で推移している。雇用・労働は総じて回復基調が続いている。

一方、景気ウォッチャー調査による景況感は、家計動向関連・雇用関連がやや減少したものの、企業動向関連が上昇し、全体としては回復基調を維持している。また、景気動向指数は、景気が上昇・下降の境目である50%を7か月連続で上回っており、県民経済計算四半期速報による実質経済成長率は、6四半期連続でプラス成長となっている。

### 景気等

- 景気ウォッチャー調査（9月実施）の現状判断DIは、前回調査（6月）に比べ0.2ポイント減の52.0となった。分野別に見ると、企業動向関連が増加し、家計動向関連・雇用関連は前回水準を下回ったものの、全ての分野で横這いを示す50を上回っている。

全体の景況感は、4期連続で横這いを示す50を上回っており、回復基調を維持している。

- 景気動向指数（8月）の一致指数DIは85.7と7か月連続で50%を上回った。  
〈※国の景気動向指数の一致指数は5か月連続50%を上回った。〉
- 県民経済計算四半期速報（平成18年4～6月期）の実質経済成長率は、対前期比プラス0.2%（年率0.9%）となり、6四半期連続（平成17年1～3月期以来）でプラス成長となっている。  
〈※国の実質経済成長率（平成18年4～6月期）は、+0.2%と6四半期連続でプラス成長となった。〉

### 生産活動 … 緩やかに増加

- 鉱工業生産指数（9月）（平成12年=100）は107.4、前年同月比（原指数）4.4%増と2か月連続で前年水準を上回った。原指数及び季節調整済指数を単月で見ると増減があるものの、四半期ベースで見ると、原指数では3期連続前年水準を上回っており、季節調整済指数では4期連続で前期比が増加となっており、鉱工業生産指数全体としては、緩やかに増加している。  
〈※全国の鉱工業生産指数（9月）は106.1、前月比0.7%減少となったが、原指数では14か月連続の増加となっている。〉
- 大口電力使用量の（9月）は、前年同月比1.8%増と5か月連続で前年水準を上回った。機械器具製造業は14か月連続で前年水準を上回り、製造業計では10か月連続で前年水準を上回っている。

## ■調査から

### 消費 … 一部に弱い動きが見られるものの、底固く推移

- ・ 自動車新規登録台数（9月）は13,278台で、前年同月比0.4%減と7か月連続で前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた、乗用車で見ると、2か月連続で前年水準を上回った。普通乗用車（2000cc超）は、2か月ぶりに前年水準を下回り、小型乗用車（2000cc以下）は6か月連続で前年水準を下回っているが、軽乗用車は9か月連続で前年水準を上回っている。
- ・ 大型小売店販売額（9月）は、前年同月比0.5%増と4か月連続で前年水準を上回った。  
既存店ベースで見ると、大型小売店販売額（9月）は8か月連続で前年水準を上回っている。  
内訳を見ると、百貨店販売額が11か月連続で前年水準を上回り、スーパー販売額は9か月連続で前年水準を下回っているが、全体の販売額は底固く推移している。  
（※全国の大型小売店販売額（9月）は、前年同月比0.8%増と2か月連続して前年水準を上回った。）
- ・ 勤労者世帯消費支出（9月：水戸市）は、前年同月比0.2%増と3か月ぶりに前年水準を上回ったが、増加した理由は、仕送り金が295%増と一時的に増加したためであり、この要因を除けば前年水準を下回っている。四半期（7～9月期）で見ても前年水準を下回っており、弱い動きとなっている。  
（※全国の勤労者消費支出（9月）は、前年同月比6.4%減と9か月連続で前年水準を下回った。）

### 民間設備投資 … 増加で推移

法人企業景気予測調査（9月：水戸財務事務所）では、18年度上期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比16.0%の増加見込みとなっている。18年度下期でも、全産業で前年同期比44.1%の増加見通しとなっている。

### 建設投資 … 住宅投資は増加で推移、公共投資はこのところ増加

- ・ 新設住宅着工戸数（9月）は、2,498戸、前年同月比12.5%増と6か月連続の増加となり、四半期毎に見ても9四半期連続で前年水準を上回っている。地域別には、県央地域が4期、鹿行地域が3期連続で増加している。県南地域は9期ぶりに2.5%減少となったが、これまでの増加の反動であり、増加基調に変わりはない。  
（※全国の新設住宅着工戸数（9月）は、対前年比4.0%増と2か月連続で増加している。）
- ・ 公共工事請負金額から公共投資の動向をみると、9月（単月）は対前年同月比0.5%減と2か月ぶりに前年水準を下回ったものの、4月からの累計では8～9月と2か月連続前年水準を上回っている。

### 雇用・労働 … 総じて改善基調を維持

- ・ 新規求人倍率（9月）は1.50と前年同月と比較して0.25%増加となった。四半期（7～9月）で見ても、前年水準を上回っている。
- ・ 雇用保険受給者実人員（9月）は、10,872人、前年同月比15.3%減と47か月連続で前年水準を下回っている。
- ・ 産業別現金給与額（規模30人以上：8月）は、313,746円と、6か月連続で前年水準を下回った。決まって支給する給与（規模30人以上）も減少幅は少ないものの6か月連続で前年水準を下回っている。

※参考：最近の国内経済の動向（内閣府「月例経済報告」平成18年10月12日）

景気は、回復している。

- ・ 企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・ 雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・ 個人消費は、このところ伸びが鈍化している。
- ・ 輸出は、横ばいとなっている。生産は、緩やかに増加している。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。